

# 平成22年

## 人口動態統計（確定数）大分県の概況

目 次		頁
結果の概要		
概況について .....		1
人口動態総覧 .....		2
1 出生 .....		3
2 合計特殊出生率 .....		3
3 死亡 .....		4
4 乳児死亡 .....		6
5 新生児死亡 .....		6
6 自然増加 .....		7
7 死産 .....		8
8 周産期死亡 .....		9
9 婚姻 .....		10
10 離婚 .....		11
用語等の説明 .....		12

## 大分県福祉保健部

担当：福祉保健企画課 地域保健・情報班  
(県庁内線2627、2628)



平成23年12月13日  
福祉保健部

## 平成22年人口動態統計（確定数）大分県の概況について

平成22年の人口動態統計については、平成23年6月1日に厚生労働省から概数の概況が発表され、平成23年6月6日に大分県分について公表をしている。

このたび、平成23年12月1日に全国分の確定数の概況が公表されたため、大分県分について取りまとめた。

調査項目（10項目）を前年対比で見ると、確定数では、新生児死亡数、自然増加数、婚姻件数、離婚件数の4項目で、その数値が減少し、出生数、合計特殊出生率、死亡数、死産数、周産期死亡数の5項目が増加した。また、乳児死亡数は前年と同数であった。

一方、平成11年以降、死亡数が出生数を上回る自然減の状態にあるが、平成22年においてもその状態は変わらず、12年連続自然減となった。

※ 人口動態統計とは…戸籍法等による、出生、死亡、死産、婚姻及び離婚の5つの届出を基に市町村長が作成する人口動態調査票を取りまとめ、集計したもの。

## 人口動態総覧

		大 分 県			全 国			
		21年	22年	対前年	21年	22年	対前年	
1 出 生	実 数	9,961人	10,072人	111人	1,070,035人	1,071,304人	1,269人	
	率	8.4	8.5	0.1	8.5	8.5	0.0	
	順 位	24位	17位	7位↑				
2 合計特殊出生率	率	1.50	1.56	0.06	1.37	1.39	0.02	
	順 位	7位	10位	3位↓				
3 死 亡	実 数	12,528人	12,988人	460人	1,141,865人	1,197,012人	55,147人	
	率	10.6	10.9	0.3	9.1	9.5	0.4	
	順 位	29位	30位	1位↓				
4 乳児死亡	実 数	27人	27人	人	2,556人	2,450人	△106人	
	率	2.7	2.7	0.0	2.4	2.3	△ 0.1	
	順 位	38位	36位	2位↑				
5 新生児死亡	実 数	15人	13人	△2人	1,254人	1,167人	△87人	
	率	1.5	1.3	△ 0.2	1.2	1.1	△ 0.1	
	順 位	39位	35位	4位↑				
6 自 然 増 加	実 数	△2,567人	△2,916人	△349人	△71,830人	△125,708人	△53,878人	
	率	△ 2.2	△ 2.5	△ 0.3	△ 0.6	△ 1.0	△ 0.4	
	順 位	27位	27位	-				
7 死 産	実 数	282胎	312胎	30胎	27,005胎	26,560胎	△445胎	
	率	27.5	30.0	2.5	24.6	24.2	△ 0.4	
	順 位	35位	44位	9位↓				
	自然死産	実 数	112胎	128胎	16胎	12,214胎	12,245胎	31胎
		率	10.9	12.3	1.4	11.1	11.2	0.1
		順 位	22位	32位	10位↓			
	人工死産	実 数	170胎	184胎	14胎	14,791胎	14,315胎	△476胎
		率	16.6	17.7	1.1	13.5	13.0	△ 0.5
		順 位	38位	42位	4位↓			
8 周 産 期 死 亡	実 数	46	52	6	4,519	4,515	△ 4	
	率	4.6	5.1	0.5	4.2	4.2	0.0	
	順 位	33位	42位	9位↓				
	妊娠満22週以後の死産	実 数	34胎	42胎	8胎	3,645胎	3,637胎	△8胎
		率	3.4	4.2	0.8	3.4	3.4	△ 0.0
		順 位	30位	42位	12位↓			
	早期新生児死亡	実 数	12人	10人	△2人	874人	878人	4人
		率	1.2	1.0	△ 0.2	0.8	0.8	0.0
		順 位	40位	36位	4位↑			
9 婚 姻	実 数	6,136組	6,076組	△60組	707,734組	700,214組	△7,520組	
	率	5.2	5.1	△ 0.1	5.6	5.5	△ 0.1	
	順 位	21位	21位	-				
10 離 婚	実 数	2,378組	2,314組	△64組	253,353組	251,378組	△1,975組	
	率	2.00	1.95	△ 0.05	2.01	1.99	△ 0.02	
	順 位	34位	23位	11位↑				
平均発生間隔 (平成22)		出生…5分21秒に1人			出生…29秒に1人			
		死亡…4分28秒に1人			死亡…26秒に1人			
		婚姻…1時間26分30秒に1組			婚姻…45秒に1組			
		離婚…3時間47分8秒に1組			離婚…2分5秒に1組			

注1) 出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚率は人口千対。乳児・新生児・早期新生児死亡率は出生千対。死産率は出産（出生＋死産）千対。周産期死亡率及び妊娠満22週以後の死産率は出産（出生＋妊娠満22週以後の死産）千対。

注2) 全国順位について、出生・合計特殊出生率・自然増加・婚姻は高率順、他は低率順としている。

< 結果の概要 >

1 出生

(1) 出生数は10,072人で、前年より111人増加し、2年ぶりの増加となった。

出生率（人口千対）は8.5で前年より0.1上昇した。

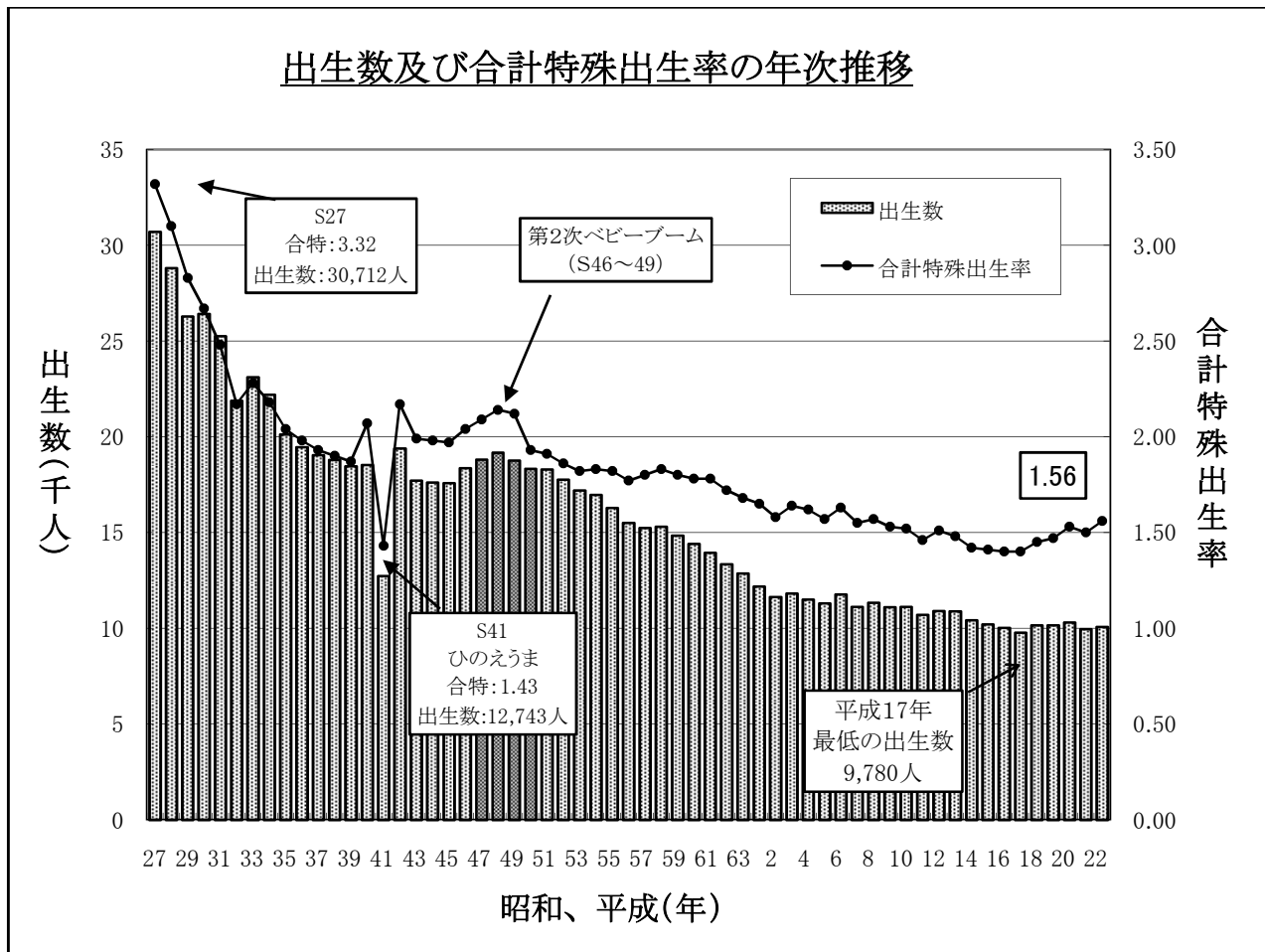
(2) 出生数を母の年齢（5歳階級）別に見ると、20歳代前半で39人、30歳代以降で154人増加し、10歳代後半で37人、20歳代後半で46人の減少となっている。

年齢階級(歳)	22年 出生数	21年 出生数	増減
～14	1	0	1
15～19	112	149	△ 37
20～24	1,300	1,261	39
25～29	3,063	3,109	△ 46
30～34	3,518	3,516	2
35～39	1,776	1,690	86
40～44	294	232	62
45～49	7	4	3
50～	1	0	1
合計	10,072	9,961	111

2 合計特殊出生率

合計特殊出生率は、1.56で前年の1.50より0.06上昇し、3年連続で1.5台を維持した。

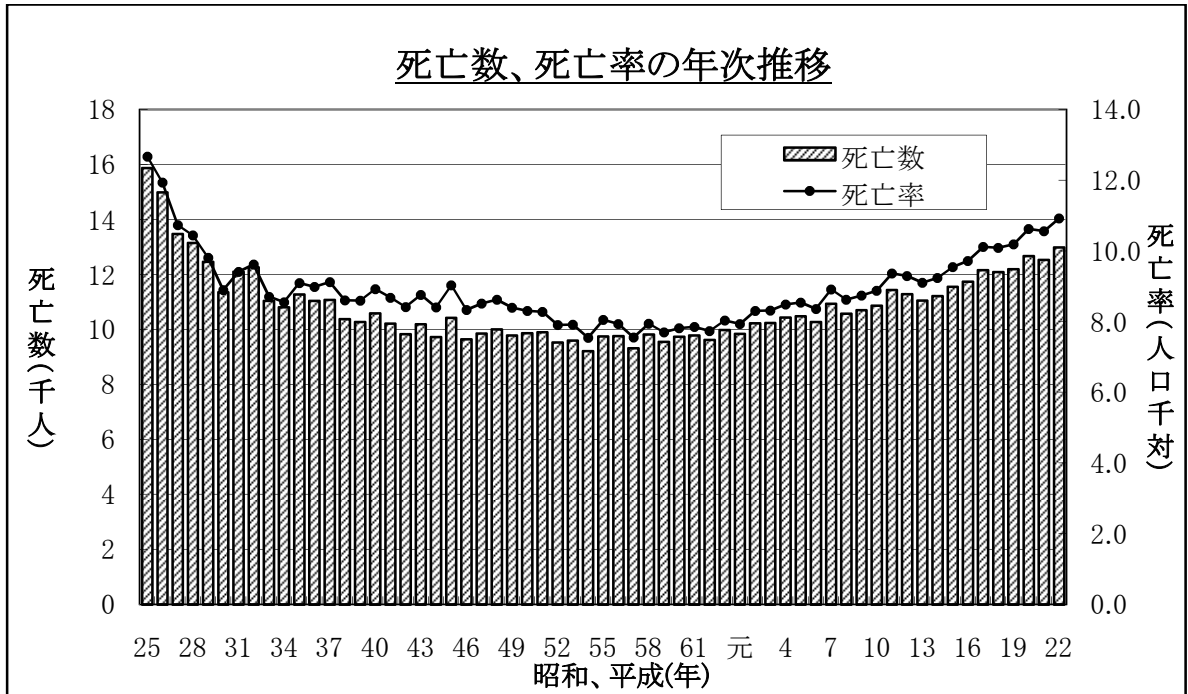
なお、全国の合計特殊出生率は1.39で、前年の1.37より0.02上昇した。



### 3 死亡

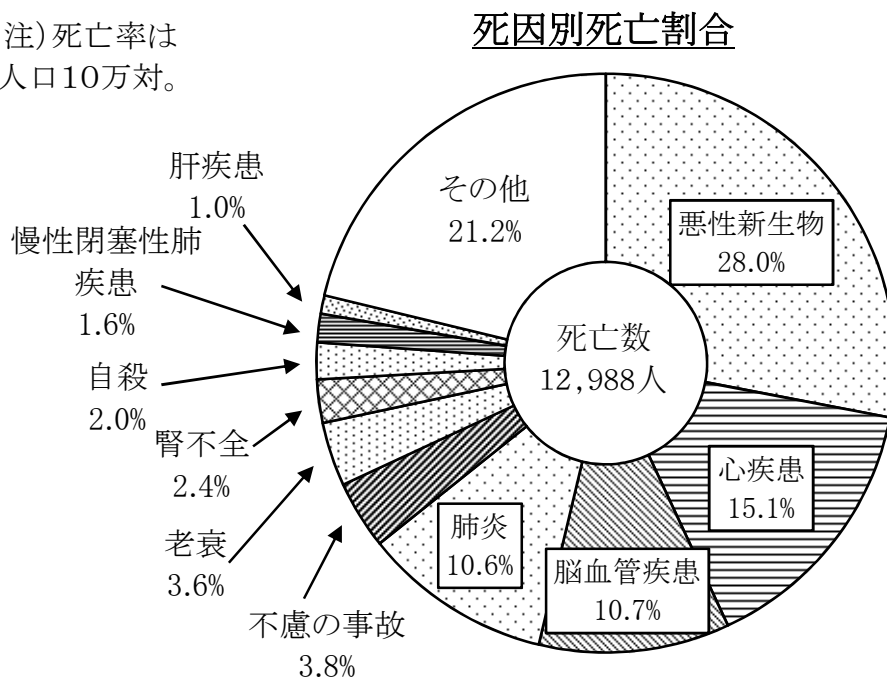
(1) 死亡数は、12,988人で前年より460人増加した。

死亡率(人口千対)は、10.9で前年の10.6より0.3上昇した。年次推移を見ると、昭和50年代後半以降、上昇傾向にある。



(2) 死因順位についてみると、第1位は悪性新生物(28.0%)、第2位は心疾患(15.1%)、第3位は脳血管疾患(10.7%)で、この3大死因が、死亡数の過半数(53.8%)を占めている。

注)死亡率は人口10万対。



また、死因別死亡数を前年と比較すると、減少したのは、自殺（29人）や肝疾患（8人）であり、増加したのは、悪性新生物（107人）や脳血管疾患（64人）、心疾患（63人）などである。

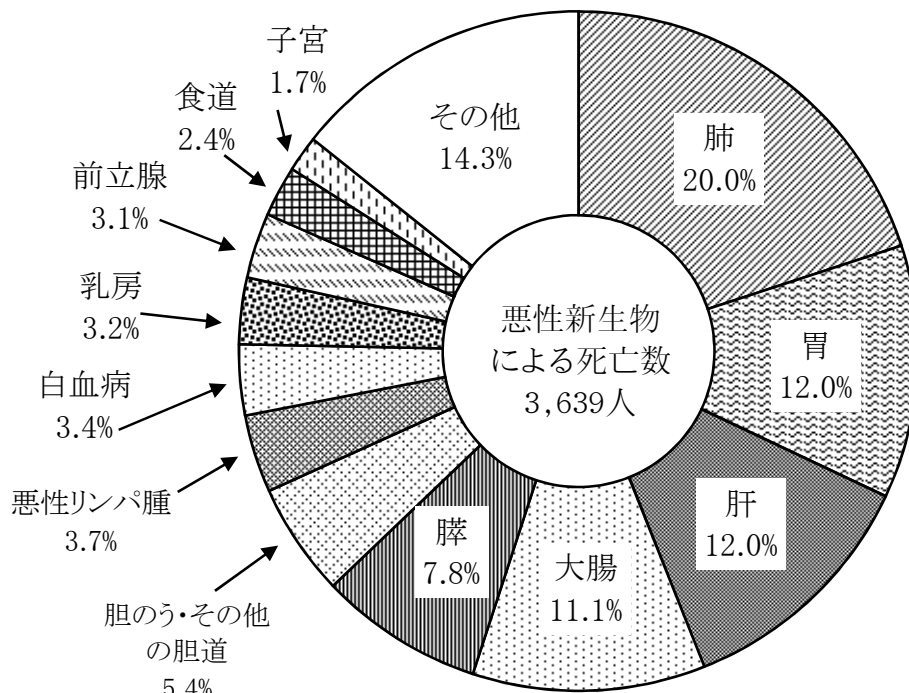
### 主な死因別死亡数・死亡率

死 因	平成 22 年				平成 21 年			対前年比	
	順位	死亡数	死亡率	割合	順位	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
全 死 因		12,988	1093.6	100.0		12,528	1055.4	460	38.2
悪性新生物	1	3,639	306.4	28.0	1	3,532	297.6	107	8.8
心 疾 患	2	1,955	164.6	15.1	2	1,892	159.4	63	5.2
脳血管疾患	3	1,384	116.5	10.7	4	1,320	111.2	64	5.3
肺 炎	4	1,371	115.4	10.6	3	1,323	111.5	48	3.9
不慮の事故	5	496	41.8	3.8	5	451	38.0	45	3.8
老 衰	6	465	39.2	3.6	6	423	35.6	42	3.6
腎 不 全	7	314	26.4	2.4	8	284	23.9	30	2.5
自 殺	8	266	22.4	2.0	7	295	24.9	△ 29	△ 2.5
慢性閉塞性肺疾患	9	207	17.4	1.6	9	207	17.4	0	0.0
肝 疾 患	10	134	11.3	1.0	10	142	12.0	△ 8	△ 0.7

注) 死亡率は人口10万対。

なお、悪性新生物の部位別の死亡順位を見ると、肺がん（20.0%）を筆頭に、胃がん（12.0%）、肝がん（12.0%）、大腸がん（11.1%）と続き、この4つで悪性新生物の55.1%を占める。

### 悪性新生物部位別死亡者数



#### 4 乳児死亡

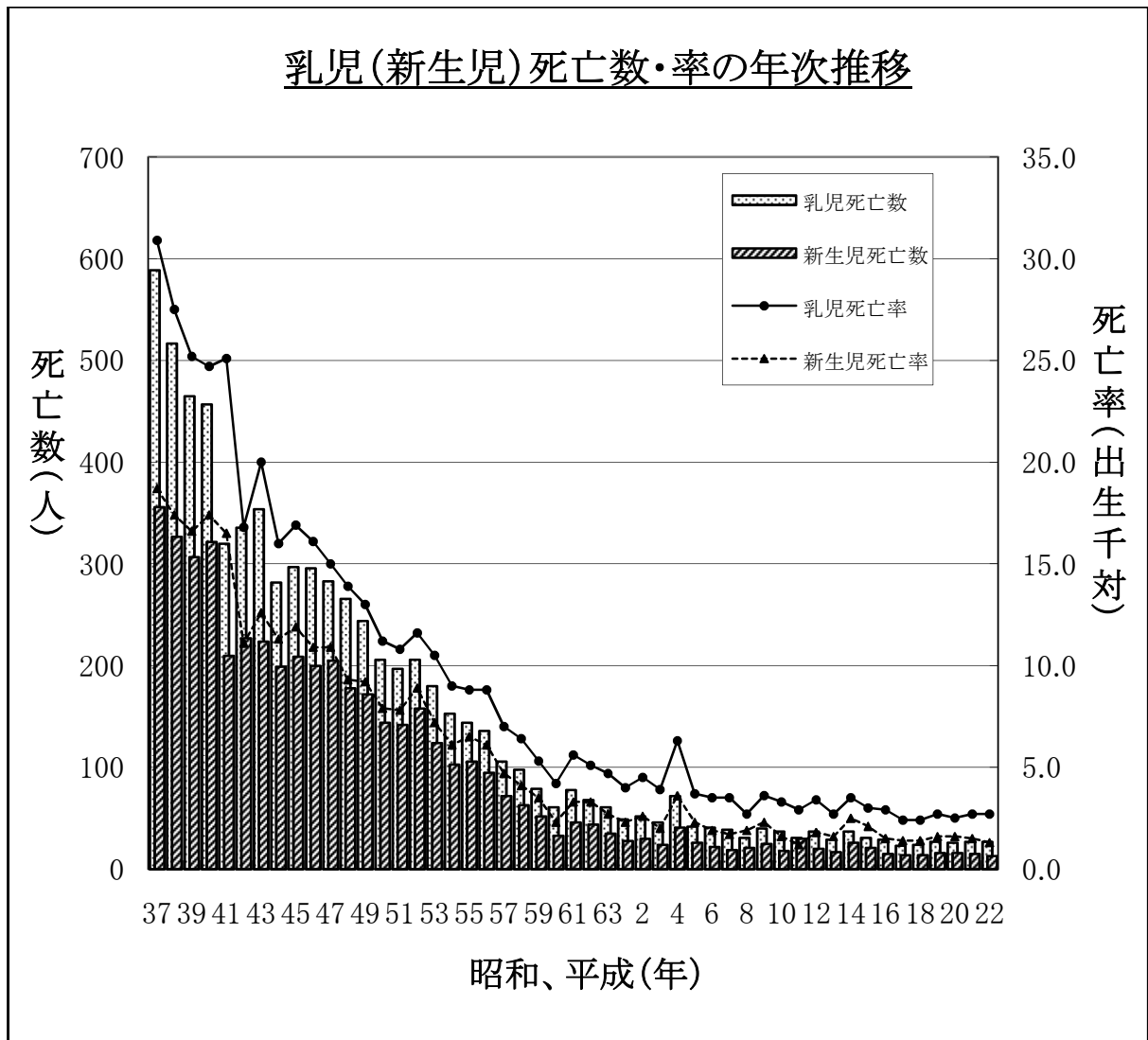
生後1年未満の死亡である乳児死亡数は、27人で前年と同数であった。

乳児死亡率（出生千対）は、2.7で前年と同率であった。その年次推移をみると、昭和60年までは急激に低下し、その後は、増減を繰り返しながら、平成5年以降ほぼ横ばいに推移している。

#### 5 新生児死亡

生後4週未満の死亡である新生児死亡数は、13人で前年より2人減少した。

新生児死亡率（出生千対）は、1.3で前年の1.5より減少した。その年次推移をみると、乳児死亡と同様の傾向で推移している。

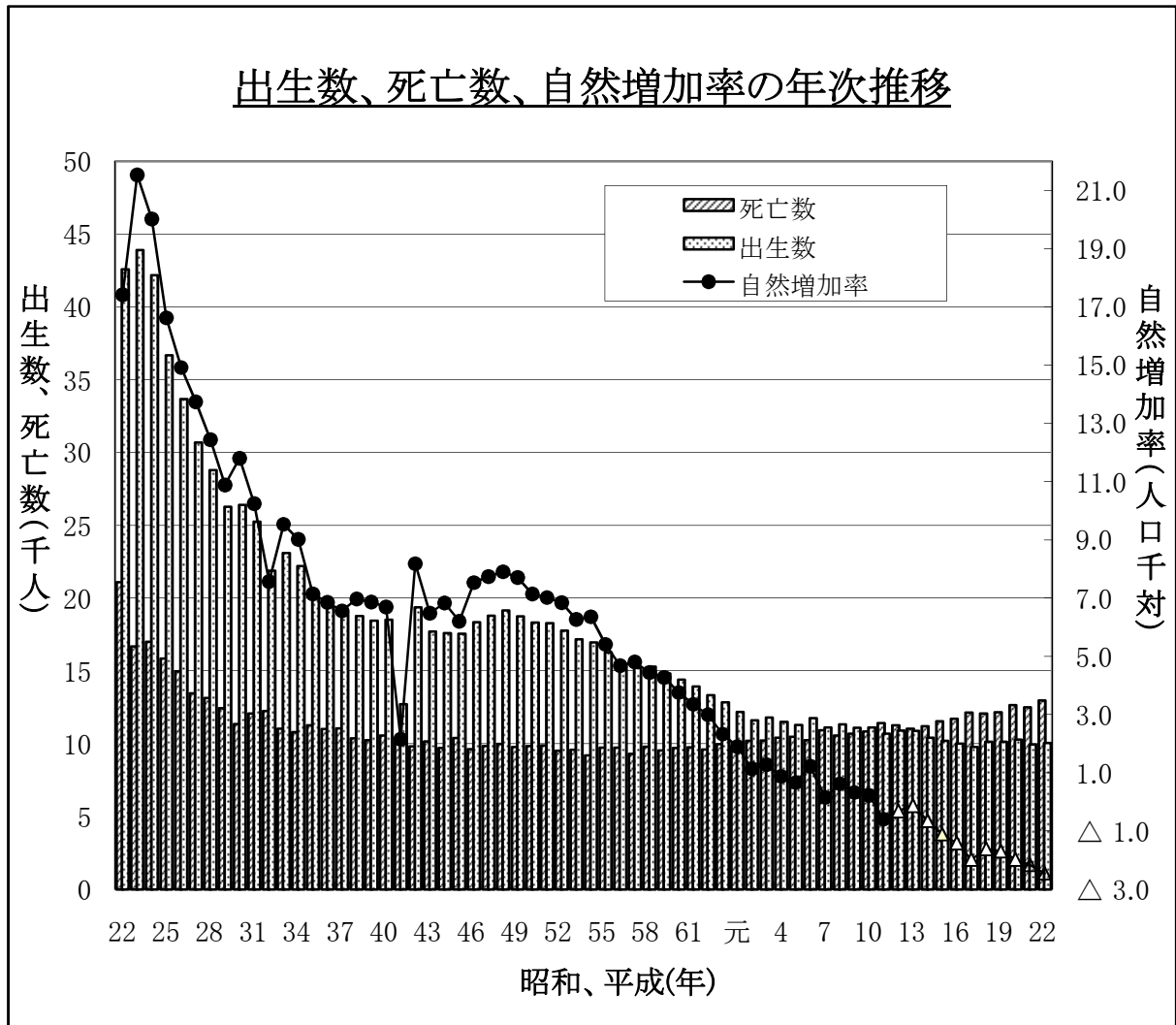




## 6 自然増加

自然増加数（出生数－死亡数）はマイナス2,916人で、平成11年以降、死亡数が出生数を上回る自然減の状態となっており、減少数は過去最大となった。

自然増加率はマイナス2.5と前年のマイナス2.2より減少幅が拡大し、過去最大のマイナス率となった。

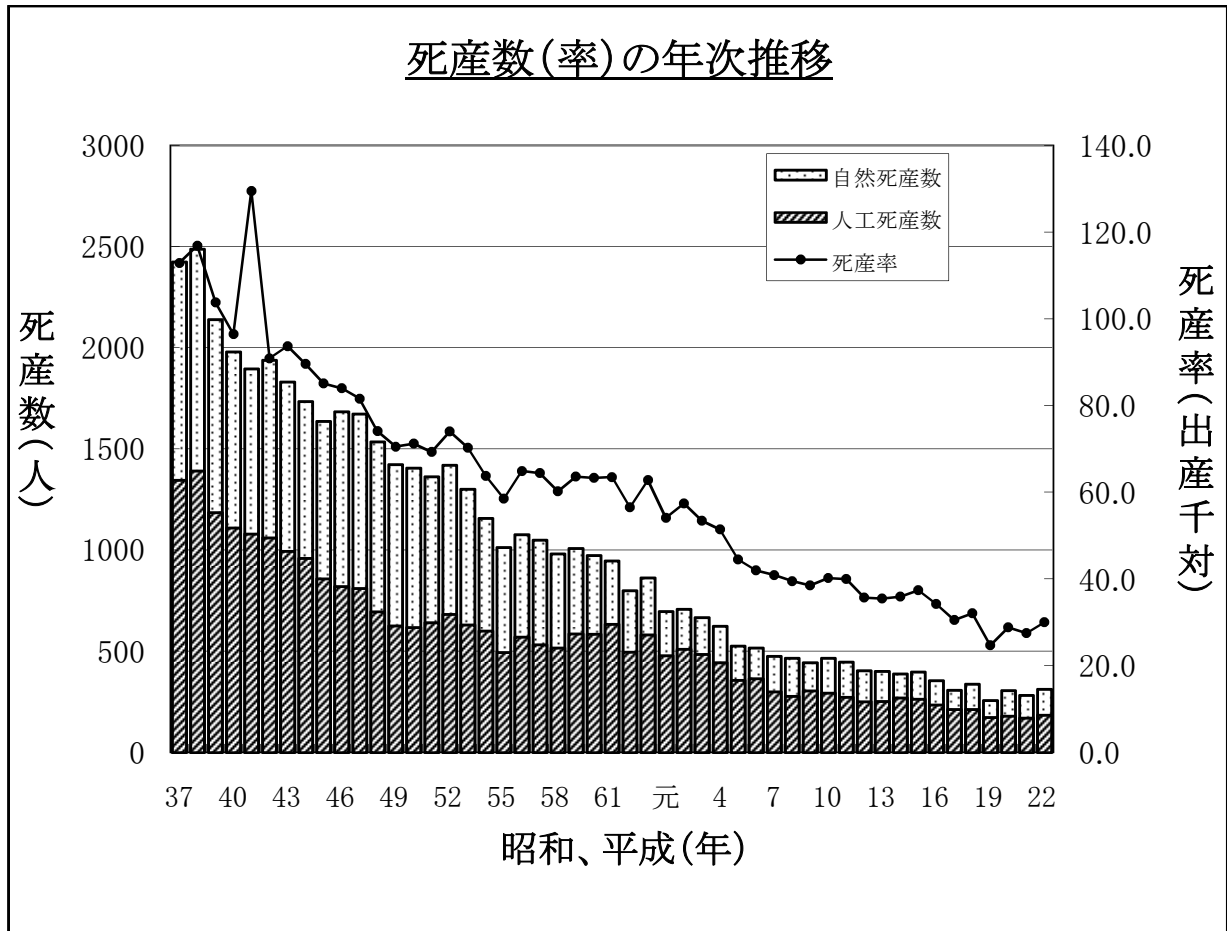


## 7 死産

死産数は、312胎で前年より30胎増加した。

その内訳は、自然死産128胎、人工死産が184胎となっている。

死産率（出産千対）は、30.0で前年の27.5より増加した。年次推移をみると増減を繰り返しながら、減少傾向にある。

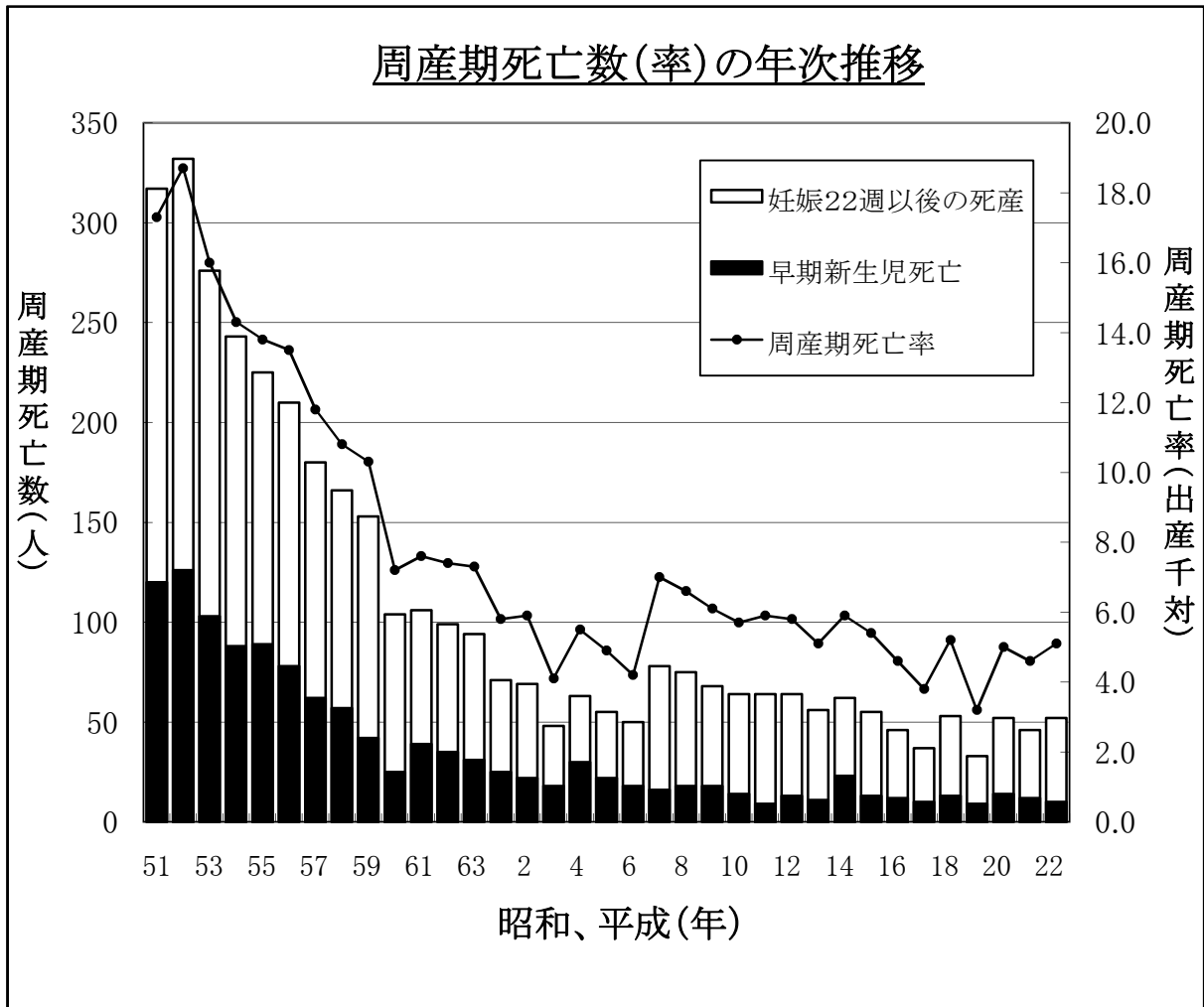


## 8 周産期死亡

妊娠満22週以後の死産に、生後1週未満の早期新生児死亡を加えた周産期死亡数は、52（胎・人）で前年の46（胎・人）より増加した。

その内訳は、妊娠満22週以後の死産が42胎、生後1週未満の早期新生児死亡が、10人となっている。

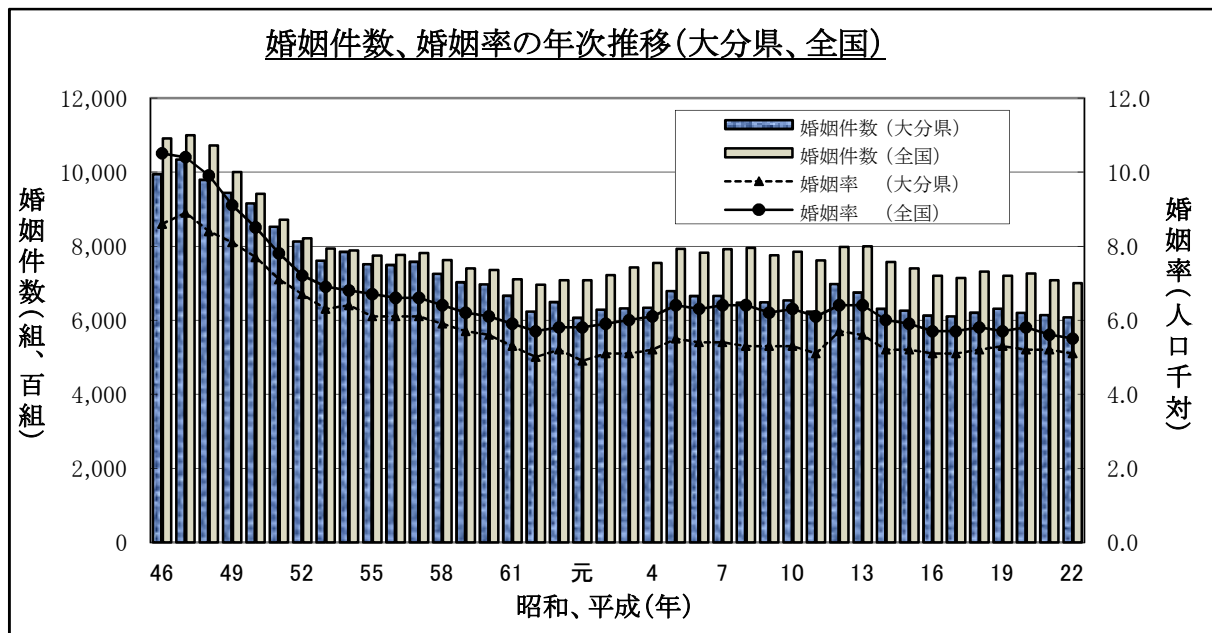
周産期死亡率（出産千対）は、5.1で前年の4.6より増加した。年次推移をみると増減を繰り返しながら、減少傾向にある。



## 9 婚姻

婚姻件数は、6,076組で、前年より60組減少した。

婚姻率（人口千対）は、5.1で前年の5.2より減少した。その年次推移をみると、昭和48年以降低下を続けた後、平成に入ってほぼ横ばいに推移している。

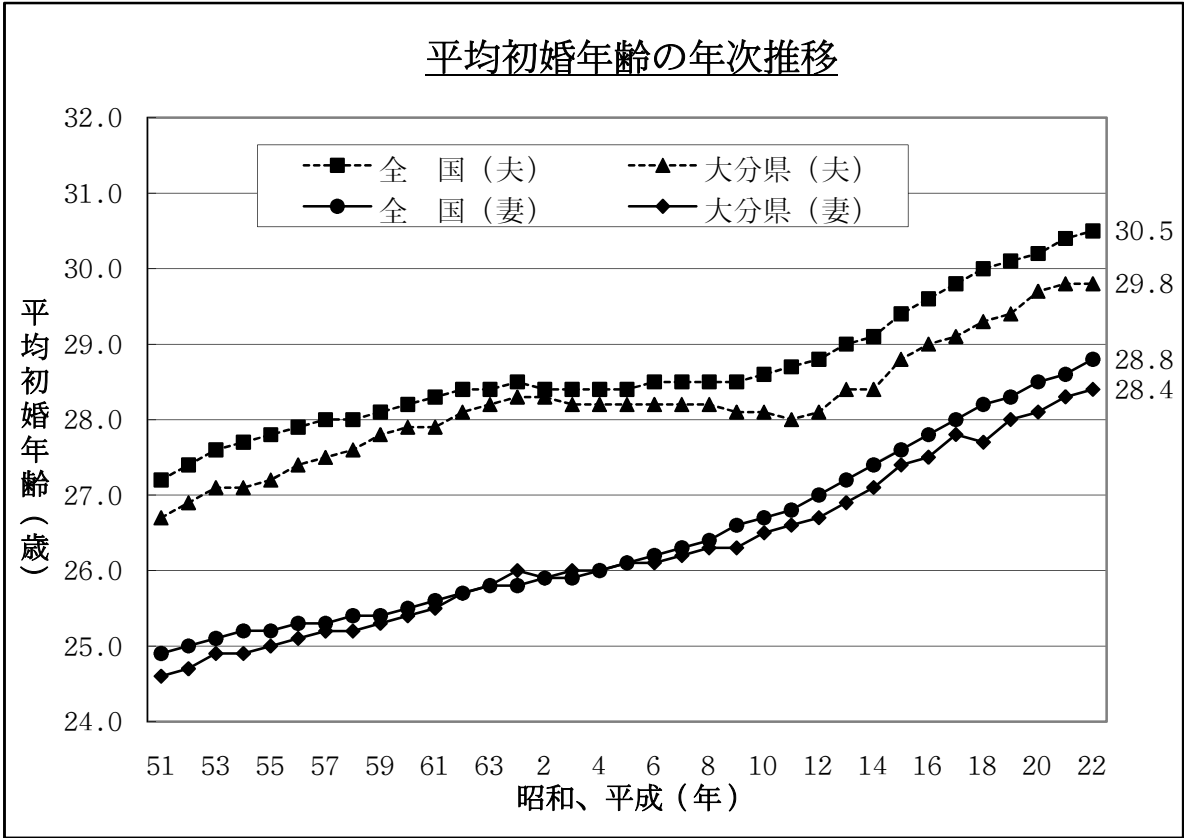


なお、平均初婚年齢は、夫29.8歳、妻28.4歳であった。

夫については、平成に入ってほぼ横ばいであったが、平成13年以降上昇傾向にある。妻については、ゆるやかであるが、ほぼ毎年上昇が続いている。

**平均初婚年齢の年次推移**

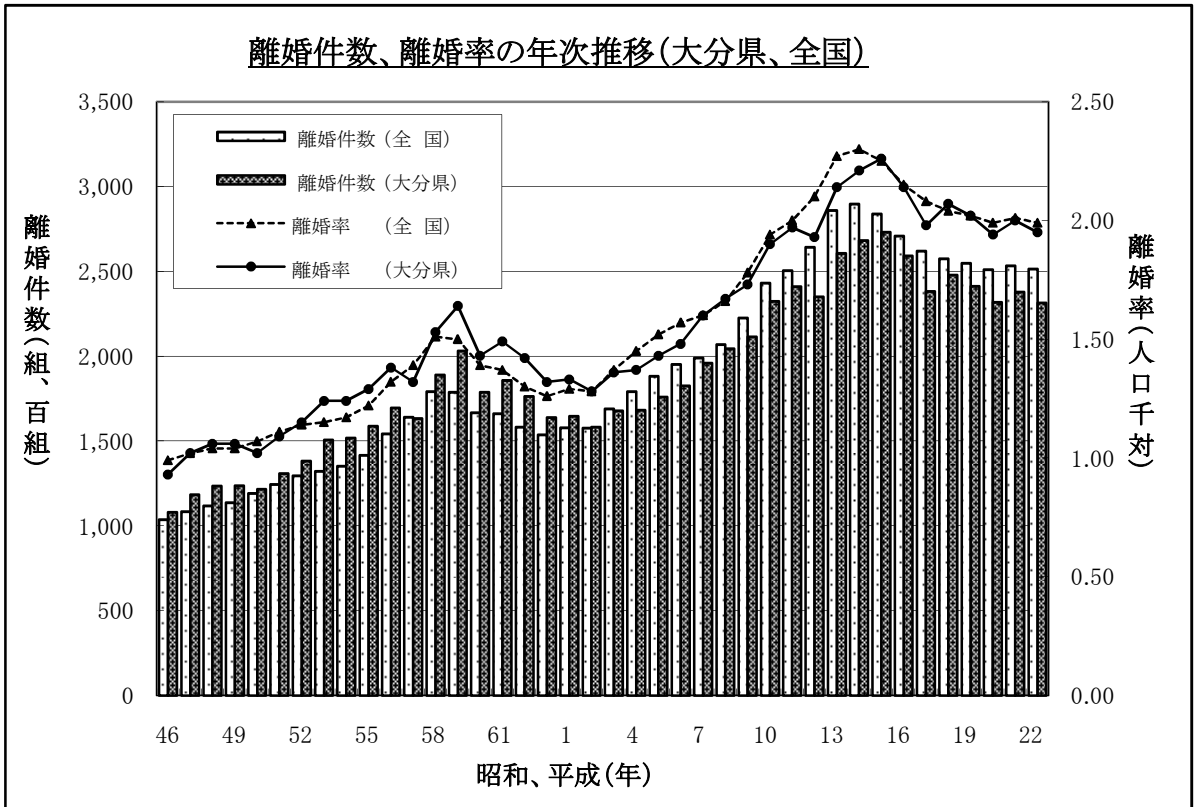
	夫		妻	
	大分県	全 国	大分県	全 国
平成5	28.2	28.4	26.1	26.1
6	28.2	28.5	26.1	26.2
7	28.2	28.5	26.2	26.3
8	28.2	28.5	26.3	26.4
9	28.1	28.5	26.3	26.6
10	28.1	28.6	26.5	26.7
11	28.0	28.7	26.6	26.8
12	28.1	28.8	26.7	27.0
13	28.4	29.0	26.9	27.2
14	28.4	29.1	27.1	27.4
15	28.8	29.4	27.4	27.6
16	29.0	29.6	27.5	27.8
17	29.1	29.8	27.8	28.0
18	29.3	30.0	27.7	28.2
19	29.4	30.1	28.0	28.3
20	29.7	30.2	28.1	28.5
21	29.8	30.4	28.3	28.6
22	29.8	30.5	28.4	28.8



## 10 離婚

離婚件数は、2,314組で前年より64組減少した。

離婚率（人口千対）は、1.95で前年の2.00より減少した。



## (参考)用語等の説明

### 1 用語の解説

- 自然増加 出生数から死亡数を減じたもの。
- 乳児死亡 生後1年未満の死亡。
- 死産 妊娠満12週(妊娠第4月)以後の死児の出産をいい、死児とは、出産後において心臓搏動、随意筋の運動及び呼吸のいずれも認めないものをいう。
- 自然死産と人工死産 人工死産とは、胎児の母体内生存が確実であるときに、人工的死産処置(胎児又は付属物に対する措置及び陣痛促進剤の使用)を加えたことにより死産に至った場合をいい、それ以外はすべて自然死産とする。  
 なお、人工的処置を加えた場合でも、次のものは自然死産とする。
  - (1) 胎児を出生させることを目的とした場合
  - (2) 母体内の胎児が生死不明か、又は死亡している場合
- 周産期死亡 妊娠満22週(154日)以後の死産に早期新生児死亡を加えたものをいう。
- 日本人人口 総人口から外国人人口を減じたものをいう。

### 2 比率の解説

- 出生率 =  $\frac{\text{年間出生数}}{\text{10月1日現在日本人人口}} \times 1,000$
- 乳児死亡率 =  $\frac{\text{年間乳児死亡数}}{\text{年間出生数}} \times 1,000$
- 死亡率 =  $\frac{\text{年間死亡数}}{\text{10月1日現在日本人人口}} \times 1,000$
- 新生児死亡率 =  $\frac{\text{年間新生児死亡数}}{\text{年間出生数}} \times 1,000$
- 自然増加率 =  $\frac{\text{自然増加数}}{\text{10月1日現在日本人人口}} \times 1,000$
- 死産率 =  $\frac{\text{年間死産数}}{\text{年間出産数(出生数+死産数)}} \times 1,000$
- 自然死産率 =  $\frac{\text{年間自然死産数}}{\text{年間出産数(出生数+死産数)}} \times 1,000$
- 人工死産率 =  $\frac{\text{年間人工死産数}}{\text{年間出産数(出生数+死産数)}} \times 1,000$
- 周産期死亡率 =  $\frac{\text{年間周産期死亡数}}{\text{年間出産数(出生数+妊娠満22週以後の死産数)}} \times 1,000$
- 妊娠満22週以後の死産率 =  $\frac{\text{年間妊娠満22週以後の死産数}}{\text{年間出産数(出生数+妊娠満22週以後の死産数)}} \times 1,000$
- 早期新生児死亡率 =  $\frac{\text{年間早期新生児死亡数}}{\text{年間出生数}} \times 1,000$
- 婚姻率 =  $\frac{\text{年間婚姻届出件数}}{\text{10月1日現在日本人人口}} \times 1,000$
- 離婚率 =  $\frac{\text{年間離婚届出件数}}{\text{10月1日現在日本人人口}} \times 1,000$
- 合計特殊出生率 =  $\left\{ \frac{\text{母の年齢別出生数}}{\text{年齢別女子人口}} \right\}$  15歳から49歳までの合計  
 15歳から49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子ども数に相当する。
- 死因別死亡率 =  $\frac{\text{年間死因別死亡数}}{\text{10月1日現在日本人人口}} \times 100,000$

### 3 死産及び乳児死亡等の関係図

